

政策討論会まとめ

I 「道路網の整備」”安全安心・観光・企業誘致～将来を見据えた道路整備”

《具体的内容》

①.市道整備をはじめ、県・隣接自治体との連携・働きかけによる道路整備の推進

■地場産業の振興、企業誘致の推進、市民の安全・利便性向上に繋がる道路については広域的な道路網整備の観点に立ち、市独自の取組みだけでなく、県や隣接自治体への強い働きかけによる事業の推進を図る。

～インフラ整備例～

- （案1）県都大分市とのアクセスを高めるための「九六位トンネル」の実現
- （案2）県道吉野原犬飼線と広域農道大南野津線の接続道路整備
- （案3）県道津久見野津線の八里合～乙見間の狭小道路整備
- （案4）県道臼杵坂ノ市線の登坂車線設置

②.港湾整備に係るアクセス道路の検討

■臼杵港の2バース化に伴い交通量の増加が見込まれる港湾取り付け道路について、市民の安全確保・利便性向上の観点から取り付け道路の整備を検討する。

～インフラ整備例～

- （案1）柳原線の拡幅・臼津バイパスへの取り付け道整備

③.既設道路の有効・効率的な維持管理方法の確立

- 道路の補修、草刈等の実施について、市民との協働等による有効な方法を検討。
- 道路の草刈等については、堆肥センター運営との関係を考慮し、組織・仕組みを構築。

II 「観光振興」”民間とともにつくる活力ある観光のまちづくり”

《具体的内容》

①.今後の臼杵市の観光施策の検証

- 臼杵の観光は文化度が高い。今後、観光都市としての発展を目指すべきかどうか。
- リピーター増への対策。
- 民間観光会社とのタイアップ等、観光施設の民間委託・職員の専門化を検討。
- 市内の子どもたちに、市の歴史・観光に関心を持たせるための施策を推進。
- 竹宵や吉四六まつり等、中心部だけでなく、周辺部からもまつりに参加できる仕組みづくりが必要

②.臼杵市の観光資源の再発見・活用について

- 「冬はふぐ、夏は蓮」といったイメージ・料理の定着を目指す。
- 臼杵市の財産である石仏や町並み、鍾乳洞をいかに知ってもらうか。PRの工夫。
- 臼杵ICから臼杵石仏までの観光案内板が不足。有効なサイン設置を再検証。
- 臼杵の歴史を感じてもらおう観光を目指してはどうか。寺めぐりの実施など
- 臼杵・野津が一体となった新たなまつりを検討

平成20年3月21日

写

政策提言書

臼杵市長 後藤 國利 殿

政策討論会第1部会において深められた議論について政策提言します。

臼杵市議会議長 武生 博明

政策討論会第1部会長 山下 幸延

【提 言】安全安心な道路網整備の推進

〔趣 旨〕

第1部会においては、合併後の重要施策であり市民アンケートにおいて最も関心の高い「道路網の整備」に関して討論を行った。

まずは、臼杵港の新たな整備に伴い交通量の増加が見込まれることから港湾取り付け道路について、市民の安全確保・利便性向上の観点から、実情を勘案した有効な道路の整備案を検討する必要があるとの結論に至った。

また、既設道路の維持管理については、路面状況の悪化に伴う安全性の確保がされていない状況を鑑み、積極的な予算措置を図るとともに、市民との協働や堆肥センター運営と関係した草刈の組織・仕組み作りを行う等、新たな体制づくりを検討する必要がある。

更には、地場産業の振興、企業誘致の推進、市民の安全・利便性向上に繋がる道路については広域的な道路網整備の観点に立ち、市独自の取組みだけでなく、県や隣接自治体との連携による事業の推進を図る必要性を検討した。

～働きかけるインフラの整備案としては～

(案1) 県道吉野原犬飼線と広域農道大南野津線の接続道路整備

(案2) 県道津久見野津線の八里合～乙見地区狭小区間の対策

(案3) 県都大分市とのアクセスを高めるための「九六位トンネル」の実現

(案4) 県道臼杵坂ノ市線の登坂車線設置

〔提言内容〕

1. 臼杵港港湾整備に伴う、安全かつ利便性の高い道路整備案を検討すること
1. 既設道路の有効・効率的な維持管理方法を確立するとともに、維持補修に係る予算の拡充を図ること
1. 市道整備をはじめ、県・隣接自治体との連携による道路整備の推進をはかること

政策討論会まとめ

I 「教育」 ” 地方から発信する教育のあり方”

《具体的内容》

①.臼杵市における教育の現状・課題

- 不登校問題対策における家庭教育・学校教育のあり方
 - ・ スクールカウンセラーを中学校に配置しているが100%機能していない
 - ・ 教育長の権限はどこまであるのか、校長・教頭の指導は
 - ・ 親が子どものことを分かっていないのが問題
 - ・ 不登校の理由・ケースは千差万別、子どもの心を開ける人を見つけること
- 臼杵市における就学前教育について（幼稚園の民営化・幼保一元化等）
- 学校統廃合の問題（地域住民と保護者、先生の関わり）。何を第一に考え議論すべきか
 - ・ 小規模校ではすべて兼務のため部活動まで手が回らない。統廃合が必要か
- 市としてどこに力を入れて取り組む必要があるのか
 - ・ 臼杵市の学力について平均まで達していない危機感
- 幼稚園の統廃合・幼保一元化。少子化対策のためにも安心して子どもを預けられる施設の整備
 - ・ 認定こども園で延長保育をさせて遊びに行く親が多いことが問題に

②.臼杵市として取り組む教育のあり方

- 不登校ゼロのまちづくりを目指す
- 学校と地域のつながり（地域ボランティア等の活用）の強化
 - ・ 家庭、地域、学校の役割の再確認
 - ・ 学力・スポーツ・心のもち方を含め一般の指導者の取り込み
- 統廃合に関して、小規模校、大規模校のメリット・デメリットについて検証

II 「商工業」 ” 活力ある地場企業のサイクル”

《具体的内容》

①.商店街の活性化

- 地元住民の商店街回帰に関して市の関わり方を検討。
- 空き店舗対策として、商店以外の活用（おもてなしステーション・観光大使・高齢者の寄合所等）。
- 中心市街地再開発について、商業地以外の活性化策についても検討

②.企業誘致・企業の活性化

- 企業誘致に関しては、議会としても陳情等の行動を起こすべき。
- 既存企業に対する保護育成を図るため、後継者育成・技術伝承・危機情報の把握を行政が積極的に行う。



平成20年3月21日

政策討論報告書

臼杵市長 後藤 國利 殿

政策討論会第2部会において深められた議論について報告いたします。

臼杵市議会議長 武生 博明

政策討論会第2部会長 堀 孝則

政策討論会第2部会 討論結果報告について

a. 討論テーマ

「教育」” 地方から発信する教育のあり方”

b. 報告内容

第2部会においては、これからの臼杵市の将来を担う子どもたちの「教育」に主眼を置き政策討論会を行った。教育という広範囲の政策分野ではあったが、施策評価等を活用し検証を行う中で特に課題となっていた「いじめ・不登校」「地域の支えあい」を中心に議論を深めていったところである。

いじめ・不登校問題に関しては、その理由やケースは千差万別であり、完全な問題解決を図ることは難しい状況である。このような状況ではあるが、その対策としては学校・地域・親の責務を見直すとともに、地域コミュニティを強化し、学力・スポーツ・心の育成を含め、一般の指導者の育成、地域ボランティア等の活用を積極的に行うことの重要性を再認識したところである。

すべての子ども達が充実した学校生活を送れるよう”不登校ゼロ”を目指した臼杵市らしい教育方針を発信するとともに、地域コミュニティを強化し学校と地域の良好な関係を築くために、第2部会においては引き続き「教育」に関する施策の議論を深めていくこととした。

政策討論会まとめ

I ほんまもんの里・有機農業の推進

《具体的内容》

①.農業の現状について

- 農業がいかに難しいか、また更に無農薬がどれほど難しいか知る必要がある。
- これまでの農業がなぜ荒廃したかをちゃんと検証する必要がある。
- 農家が採算面など考え無農薬ができるかどうか。行政がそれを農家に納得させることができるか。

②.生産者の参加

- どれだけの生産者がついてくるのか先が見えない。生産者にお金が残るのか。
- 農業者の目から見た内容の充実した計画・実践の必要がある。
- 有機無農薬には生産者と消費者の信頼関係が必要。付加価値で展望が開ける。
- 団塊の世代の活力を引き込むのも一つの方策。

③.堆肥センターの運営

- 採算面がどうなのかわからない。企業として成り立つことが重要と考える。
- 誰が運営を行っていくのかがはっきりしない。
- 堆肥センターの先行きが見えない。センターの規模や堆肥の価格、堆肥も高ければ生産者は利用しない。
- 堆肥の需要どれだけあり、どれだけ供給できるのか、どのような作物を作ろうとしているのか。
- ふん尿や草木の処理料はいくらとするのか。
- 堆肥センターの適切な候補地はあるのか、確実にできるのか。
- 堆肥の材料の確保についてはどのように考えているのか

④.事業推進について

- 交付金期間3年で事業が定着しない場合、市は引き続き支援するのか。
- 農協についてはこれまで営農指導の最大のパートナーだった、今後どのようなかたちで参画してもらうのか。
- 消費者がどのようなものを望んでいるか、ニーズ調査をしっかりと行い、市場の明確化を行う必要がある。



平成20年3月21日

政策提言書

臼杵市長 後藤 國利 殿

臨時政策討論会において深められた議論について政策提言します。

臼杵市議会議長 武生 博明

臨時政策討論会会長 三浦 正行

【提 言】持続可能な有機農業の構築

〔趣 旨〕

今年度より開始した「臨時政策討論会」では、農業施策「ほんまもん農業～臼杵市地域農林水産業再生事業～」を市の喫緊の重要課題と位置づけ、5月・11月と2回にわたり討論会を行ったところである。この中では、現在世界的規模で問題となっている”食の安全”をテーマに有機農業の推進及び堆肥センターの建設について議論が交わされた。

有機農業の必要性・可能性に関しては大いに理解し期待できるものがあるが、その生産性・収益性の未確定さから市内農家の賛同を得ることが一つの大きな課題になると考えられる。その対策として市では優良堆肥生産の拠点となる「堆肥センター」建設を計画しているが、施設の規模や運営方法、原材料の確保方法等に関して、まだ課題が残されていると感じられた。

農業を再生し、市民の食の安全を確保するという非常に重要な施策であるため、堆肥センターの安定的な経営には十分に配慮するべきであり、その上で消費者・生産者共に利益を享受できる付加価値の高い有機農業の確立に努める必要がある。

〔提言内容〕

1. 消費者・生産者共に利益を享受できる付加価値の高い有機農業を推進すること
1. 堆肥センター建設においては十分な実態把握を行い、安定的な運営が可能な体制・仕組みを構築し健全な経営に努力すること